

産後の母親のコンフォート尺度の開発と産後の母親のコンフォートに影響する関連要因の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-08-11 キーワード: コンフォート, 産後ケア, 産後, 母親, 尺度開発 作成者: 北田, ひろ代 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/245

博士學位論文

内容の要旨及び論文審査結果の要旨

第 28 号

2016年3月

武蔵野大学大学院

は し が き

本号は、学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条による公表を目的として、2016年3月18日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を収録したものである。

※要旨番号について、通し番号の整理により以下の通り変更（2022年8月8日）。

- ・変更前：第1号
- ・変更後：第28号

目 次

氏 名	学位記番号	学位の種類	論 文 題 目	(頁)
北田 ひろ代	博士甲第28号	博士（看護学）	産後の母親のコンフォート尺度の開発と産後の母親のコンフォートに影響する関連要因の検討	・・・ 1

氏名	北田ひろ代
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	甲第28号
学位授与の日付	2016年3月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	産後の母親のコンフォート尺度の開発と産後の母親のコンフォートに影響する関連要因の検討
論文審査委員	主査 武蔵野大学 教授 杵淵恵美子
	副査 武蔵野大学 教授 香春知永
	副査 武蔵野大学 教授 齋藤泰子

論文内容の要旨

【Key Words】 コンフォート、産後ケア、産後、母親、尺度開発

【目的】 Kolcaba は「コンフォート」を「3つのニードの状態（緩和・安心・超越）が4つのコンテキスト（身体的・サイコスピリットの・社会文化的・環境的）において満たされる状態」と定義している。本研究は、Kolcaba のコンフォート理論に着目し、母親の3つのニード（緩和・安心・超越）が4つのコンテキスト（身体的・サイコスピリットの・社会文化的・環境的）において満たされる状態を「産後の母親が育児を肯定的に捉え、育児を楽しみと感じる状態」すなわち「産後の母親のコンフォート」と定義し、「産後の母親のコンフォート尺度」を開発し、「産後の母親のコンフォート」に影響する関連要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】 研究1. 「産後の母親のコンフォート尺度」の開発：産後の母親のコンフォートを測定する尺度を作成し、産後ケアの実績がある先駆的な施設においてケアを受けた母親250

名に質問紙調査を実施した。尺度の信頼性は Cronbach' s α および θ 信頼性係数を評価した。基準関連妥当性の検討には日本語版 PSI を使用し、確認的因子分析で構成概念妥当性の検討を行った。研究 2. 産後の母親のコンフォートに影響を及ぼす関連要因の検討：産後ケアの実績がある先駆的な施設においてケアを受けた母親 118 名を対象に、研究 1. で開発された尺度を用いて質問紙調査を行った。産後の母親のコンフォートの変化を明らかにするために、ケア前後における尺度得点の平均値の差を対応のある t 検定を用いて検討した。母親のコンフォートに影響を及ぼす関連要因を明らかにするため、基本的属性や母親が受けた産後ケアと尺度得点の変化との関連について t 検定、一元配置分散分析を行い、一元配置分散分析で有意な関連が見られた項目については Tukey の多重比較を用いて分析した。また、尺度得点の変化と関連の見られた項目を独立変数、尺度得点の変化を従属変数とする重回帰分析を行った。

なお、本研究は、武蔵野大学看護学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。(2607-2、2705-1)

【結果】 研究 1. 信頼性・妥当性ともに高い「産後の母親のコンフォート尺度」29 項目を開発した。研究 2. 産後ケアを受けた母親の全体のコンフォートはケア前と比較して有意に上昇していた。母親のコンフォートに影響を及ぼしていた基本的属性は、施設の利用日数が 2 泊以上 5 泊未満であること有職者であることの 2 項目であった。母親のコンフォートに影響を及ぼしていた分析産後ケアの内容については、母親の捉え方からみたケアの内容で分析したところ「これからの赤ちゃんの成長に関する助言」「上の子や夫への関わり方についての助言」「自宅に帰ってからの家事の調整などについての助言」「あなたのやり方を助産師が尊重してくれたこと」「足浴」の 5 項目であり、これは**【産後の回復を促進する関わり】****【産後における役割を遂行できるような関わり】**に該当するケアであった。一方で、母親の捉え方ではなく産後ケアの経験の有無で、関連がみられたケアは**【産後における役割を遂行できるような関わり】**に該当する「自宅に帰ってからの家事の調整などについての助言」「上の子や夫への関わり方についての助言」「これからの赤ちゃんの成長に関する助言」の 3 項目であった。また、産後ケアを受ける前の母親のコンフォートと有意な関連がみられたのは施設の利用時期（産後月数）であり、産後 0 か月と 1 か月の母親は、産後 3 か月の母親よりもケア前のコンフォートが有意に低かった。

【考察】 産後 4 か月未満の母親にとって、**【産後の回復を促進する関わり】** や **【産後にお**

ける役割を遂行できるような関わり】の産後ケアを経験することは、コンフォートが増進する上で重要な要因であることが明らかとなった。産後ケアが継続的に、ケア提供者である助産師との共同作業としてケアがなされる2泊以上5泊未満で施設を利用することが、母親のコンフォートが増進する関連要因であることが明らかとなった。今回は、ケアの経験の有無よりも、ケアに対する母親の捉え方からみた産後ケアの内容について検討したが、今後は母親の捉え方について、ケア提供者との関係性や育児に対するニーズなどから分析することで、産後の母親のコンフォートに影響を及ぼす産後ケアの在り方について検討することが必要である。また、産後ケアを受ける前のコンフォートの状態から、産後0か月と1か月の母親は、育児を肯定的に捉え、育児を楽しんでいると感じるコンフォートの状態が低かったことから、産後0か月と1か月の時期から産後ケアが開始されることの必要性が明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本論文は産後の母親の「コンフォート」に注目し、コンフォート尺度の開発と、開発されたコンフォート尺度を用いてデータ収集し、コンフォートに影響する要因を明らかにするという新規性のある研究と認められます。

研究データの分析内容に一部不十分さ、研究の限界と展望についても論述に不十分さが見受けられ、博士論文としての論理性を備えた論述として不足な部分が散見されますが、看護学へ十分貢献できる内容と認められることから、審査委員全員一致により、博士の学位授与に相応しいと判断されました。